

日本学術会議

# 東北地区会議ニュース

No. 35

## 1 ごあいさつ

日本学術会議第一部会員 東北地区会議第25期運営協議会 代表幹事

国立大学法人東北大学 大学院文学研究科 教授

京都先端科学大学 人文学部長・教授

佐藤 嘉倫

いつも日本学術会議東北地区会議の活動にご尽力賜り、厚く御礼申し上げます。昨年10月に第25期運営協議会代表幹事に就任しました佐藤嘉倫です。よろしくお願ひ申し上げます。

東北地区会議では学術研究のフロンティアで研究を進めている専門家による成果を市民の皆様へ伝えて、学術研究に対する理解を深めていただくために、毎年度東北の各県でさまざまなテーマの公開学術講演会を開催してきております。今年度は2020年9月26日に「人生100年時代の雇用問題」と題する講演会を開催しました。あいにくコロナ禍のために講演者と参加者が一堂に会する開催形式は取れなかったため、オンライン講演会としました。しかしオンライン開催としたおかげで、さまざまな地域から数多くの方に参加していただくことができました。

新卒一括採用、終身雇用制、年功賃金という日本型雇用慣行は、かつては日本の高度経済成長を支えてきましたが、現代では弱体化しています。このため、若い人たちの非正規雇用率が上昇するなど、労働市場の流動化が進んでいます。また「人生100年時代」と言われるように、60歳代で定年を迎えた後も長い人生が待っています。その人生をどう送るのかも大きな問題になるでしょう。引退するのか、働き続けるのか、またはボランティア活動に従事するのか、などさまざまな選択肢があります。

このような現代日本の中でどのように働き、生きていけばいいのでしょうか。これが講演会のテーマでした。4人の講演者の方には、それぞれのご専門の視点からこのテーマに取り組んでいただきました。白波瀬佐和子先生には高齢者就労の問題、太郎丸博先生には若年層のキャリアと結婚の問題、高橋満先生にはリカレント教育の可能性と限界について講演していただきました。また私も人間関係が雇用プラスの影響をもたらすこととお話ししました。

東北地区会議は、今後もこのような活動を通じて市民の皆様との会話を進めてまいります。

東北地区における日本学術会議の今後の事業についてご意見・ご提案がございましたら、東北地区会議運営協議会委員や事務局（東北大学研究推進課）にお知らせください。よろしくお願ひ申し上げます。

## 2 第 25 期東北地区会議 運営協議会新任委員挨拶

東北地区会議第 25 期運営協議会委員 日本学術会議第一部会員

国立大学法人東北大学 総長特別補佐（共同参画） 高度教養教育・学生支援機構 教授

芳賀 満

「みちのく」とは「政治支配がよく及ばない地域」の意で国郡里制の完成後は特に東北を指す。城柵で支配するも、官位も与えられた「蝦夷」族長伊治皆麻呂は乱を起こす。白河関を越すと「一山百文」の「鬼こもれり」（平兼盛）とされる「秋風ぞ吹く」（能因）大地。しかしだからこそ義経も逃げ込み、『奥の細道』とは歌枕支配からの解放の冒険である。中央の支配が及ばない領域の重要性。公選制を経た者が民意を代表はするも、主権在民原理に抛らず経済の支配からも独立し且つ不易流行を旨とする学識の意見は、多様性をもたらし結局は全体の豊穰を生む。乱を起こすつもりはない。「みちのく山に<sup>くがね</sup>黄金花咲く」（大伴家持）との財は中央の御代の為だが、喜んでそうともなろう。私は古代世界の中心アテナイやペラと、その「みちのく」ペルシアの更に奥地、世界の辺境インダス河上流域ガンダーラなどの中央ユーラシアを、後者の立場から研究する者である。日本全体の為にも「蝦夷」でありたい。

東北地区会議第 25 期運営協議会委員 日本学術会議第三部会員

国立大学法人東北大学 大学院工学研究科 教授

北川 尚美

第 22 期より連携会員を、今期から第三部会員および幹事を拝命しています。化学委員会と環境学委員会に所属し、自身の専門（化学工学）の分科会に加え、環境やエネルギーに関連する分科会や小委員会で活動しています。現在、学術会議の様々な問題点が指摘され、よりよい役割発揮に向けての改革が進んでいます。誤解されている事柄も多くありますが、この機会をプラス思考で捉え、地区会議においても活発な活動に繋げていきたいと考えます。また、2050 年温室効果ガス排出量実質ゼロとの目標に対し、破壊的イノベーションが必須とされていることに対して、何に取り組むべきかなど、少しでも具体化した形で次の世代に示せるよう取り組みたいと考えています。

東北地区会議第 25 期運営協議会委員 日本学術会議第三部会員

国立大学法人東北大学 大学院理学研究科 教授

田村 裕和

前期に引き続き第三部会員を務めております。専門は原子核物理学（実験）で、前期、前々期は物理学委員会の素粒子物理学・原子核物理学分科会の委員長をしておりました。この分野は極めて基礎的な学問分野で、100 年後に人類の役に立つかも知れない新しい科学の基盤を作るものです。昨今、短期的な視野の応用やイノベーションが重視される傾向が強まり、我々の分野の研究に限らず、息の長い基礎研究が社会から軽視されつつあるのではないかと危惧して

います。学問と産業の様々な分野で真のイノベーションを起こせる人材を育成し、日本の科学・技術の底力を回復するために、学術会議の皆さまと連携して基礎研究の重要性を訴えていきたいと思っています。

東北地区会議第 25 期運営協議会委員 日本学術会議連携会員  
国立大学法人山形大学 学術研究院 教授(農学部担当)

木村直子

連携会員として、食料科学委員会の畜産学分会を主とし、東北地区会議運営協議会でも活動させて頂くこととなりました。第 23 期では、2016 年に山形大学にて東北地区会議主催公開シンポジウム「大学を通じた地方創生～山形の「知・技術・ひと」による産業イノベーション」の開催、2017 年に畜産学分会報告「畜産学の特性に配慮した教育・研究課題－飼育動物の安定的利活用を目指して－」の発出に携わらせて頂きました。2020 年以降、産学官あらゆる領域で、ポストコロナ時代の有り様の模索と改革が始まっていることと存じます。食料資源の豊かな東北地方での「持続可能な食料生産」や「食料の安全保障」などのよりよい考え方を見出したいと存じます。専門は哺乳類（産業動物）の生殖生物学・動物生殖工学です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

東北地区会議第 25 期運営協議会委員 日本学術会議連携会員  
国立大学法人岩手大学 農学部食料生産環境学科 准教授

武藤由子

2017 年 10 月より第 24 期・25 期の連携会員となり、この度は東北地区運営協議会委員を務めさせて頂くことになりました。どうぞよろしくお願いいいたします。専門は農業農村工学分野の土壌物理学で、主に農地における土壌水分と窒素の動態に着目した実験を行っています。また、畑地での土壌水分量変化の調査や灌水管理についてのご相談を頂くこともあり、日本学術会議で所属する農学委員会 地域総合農学分会で議論を重ねている農村地域での情報通信技術の展開にも貢献できればと考えております。どうぞよろしくお願いいいたします。

### 3 令和 2 年度事業報告

- 1) 第一回東北地区会議運営協議会の開催（令和 2 年 5 月 20 日）
- 2) 公開学術講演会「人生 100 年時代の雇用問題」の開催（令和 2 年 9 月 26 日）
- 3) 第二回東北地区会議運営協議会の開催（令和 3 年 2 月 15 日）
- 4) 東北地区会議ニュース（No.35）の発行（令和 3 年 3 月）

## 4 公開学術講演会報告

### 日時

令和2年9月26日（土）13：00～16：20

### 開催方式

オンラインによる開催

### テーマ

人生100年時代の雇用問題

### 講演会次第

13：00 開会挨拶

①日本学術会議副会長挨拶

渡辺 美代子（第24期日本学術会議副会長、国立研究開発法人科学技術振興機構副理事）

②日本学術会議東北地区会議代表幹事挨拶

厨川 常元（第24期東北地区会議代表幹事、東北大学大学院医工学研究科研究科教授）

13：10 講演

①「人生100年時代の高齢就労：格差拡大か縮小か」

白波瀬 佐和子（第24期日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

②「日本型雇用システムの変容と若者のキャリア・結婚」

太郎丸 博（京都大学大学院文学研究科教授）

③「リカレント教育の可能性と限界」

高橋 満（東北大学名誉教授、仙台白百合女子大学グローバル・スタディーズ学科 特任教授）

④「雇用問題とソーシャル・キャピタル」

佐藤 嘉倫（第24期東北地区会議会員、東北大学大学院文学研究科教授、京都先端科学大学  
人文学部学部長・教授）

15：50 質疑応答

16：20 閉会挨拶

佐藤 嘉倫

（司会進行：佐藤 嘉倫）

### 参加者

約100名

国立大学法人京都大学 大学院文学研究科 教授  
太郎丸 博

この度は「人生百年時代の雇用問題」という講演会でお話する機会を与えていただき、ありがとうございました。他のスピーカーの方々のお話やフロアからの質問やコメントには、学ぶところが多かったです。私の専門は社会階層論で、長寿化については真剣に考えたことがなかったので、とても勉強になりました。講演では社会階層論の知見を紹介して、長寿化によってどのようにキャリアパターンや家族形成が変容しうるのか、お話しましたが、以下ではその準備や講演会中に私が考えたことを述べたいと思います。



ご講演をされる太郎丸先生

この依頼を受けたときに最初に思ったのは、「人生百年時代って何？最近の平均寿命は男 81 歳、女 87 歳ぐらいでしょ？百年も生きる人はわずかでは？」ということです。2019 年の生命表から計算すると 100 歳以上まで生きる人はゼロ歳児のうち男性で 2%、女性で 7%です。日本の平均寿命は戦後一貫して上昇していますが、その伸び率は近年になるほど緩やかで、最近あまり上昇していません。つまり、近い将来に「人生百年時代」が到来するとは考えにくい、ということです。

そもそも、日本が平均寿命の上昇という僥倖を享受できたのは、戦後の栄養状態や公衆衛生、医療技術の改善によると考えられますが、日本が戦争やパンデミックに見舞われなかったことによる部分もあるでしょう。今後は環境破壊や人口爆発など、長寿化の阻害要因はいろいろ考えられます。

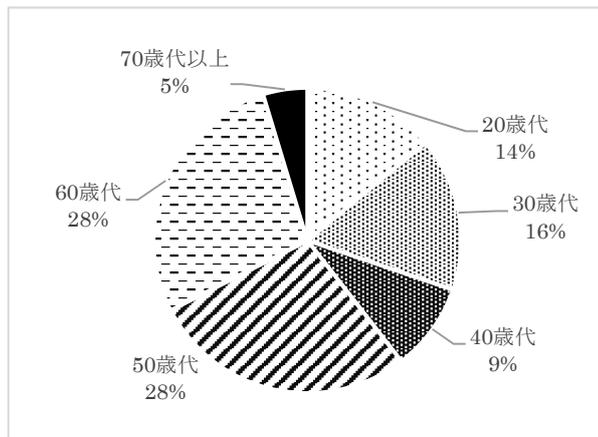
その中でも特に私が懸念しているのが、一般の人々の科学に対する無知のせいで、助けられる命を助けられない事例があることです。ワクチンをはじめとした医療／科学技術を認可したり、それらの利用を普及させたりするのは、科学者だけでなく政治家、ジャーナリスト、一般市民でもあります。彼らが誤った知識にもとづいて誤った判断をすれば、安全な技術が普及せず、そのせいで助けられる命も助けられなくなります。一般市民の科学リテラシーの向上は人生百年時代の実現のためにも重要で、そのために学校教育やさまざまな形態の生涯教育が果たす役割は大きなものがあります。「学校で習ったことなんて社会に出たら役に立たない」という人も多いですが、けっしてそのようなことはなく、人の生死にも関わりうると考えてくれる人が増えることを祈っています。



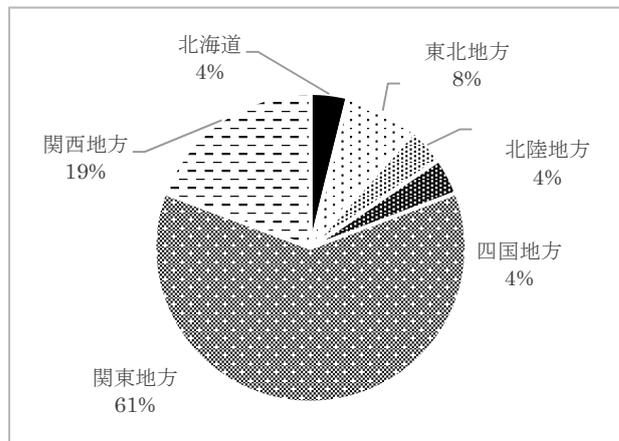
質疑応答に対応する太郎丸先生

## アンケート結果（抜粋）

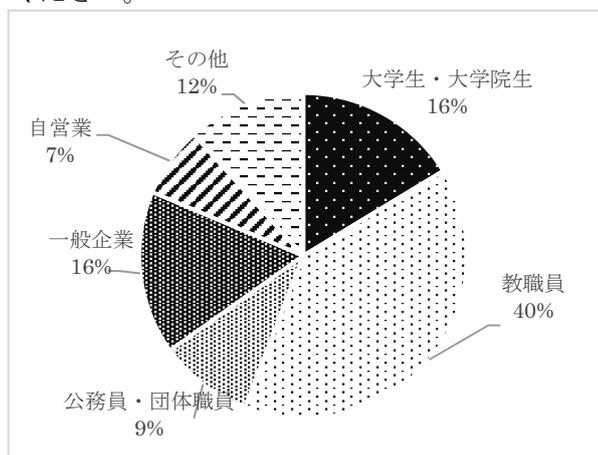
●年齢についてお答えください。



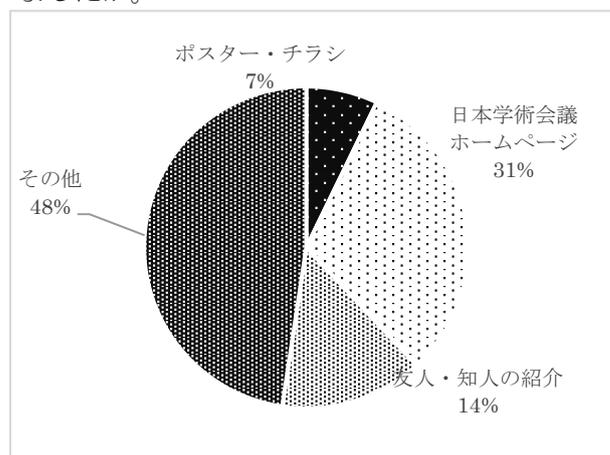
●お住まいについてお答えください。



●ご職業について、差し支えない範囲でお答えください。



●この講演会について、どのような方法で知りましたか。



●今回の講演会について、御意見・御感想などがありましたら御自由にお書きください。

講演者の皆様のお話の内容が大変興味深く、オンライン疲れもなくあっという間に時間が過ぎてしまいました。

社会学の立場のお話をまとめて聞いたのはこれまであまりなかったので新鮮でした。

大変勉強になりました。お陰様で研究視野が広がられました。

質疑応答もとても深い知見に溢れており参加して大変よかったです。ありがとうございました。

新型コロナのなかで、職業問題も含めて取り上げていただき大変有意義でした。現在、社会的に問題になっている面の整理と、一歩進んだ提言をお話しいただいたかと思いますが、やはり今後どのようになるか、どういう方向に行くべきかという考えを外れてもいいから話していただいている講演が、自分の予想と比較して面白かった。そういう面では時間が足りなかったが、リカレント教育の話はもっとゆっくり聞きたかった。

●今回の講演会はオンラインで開催しましたが、感想があればお書きください。

どの地域に居住していてもオンライン開催であれば貴重な公演を聞くことができるので、ありがたかったオンラインの開催だったので、気軽に参加することができた。

遠方からも参加できて有り難い。資料もリアルよりも見やすい。オンラインは不慣れでしたが、ご案内に沿って特に支障なく対応させて頂き、一般講演会より集中できたと存じます。

## 5 地区会議構成員（会員・連携会員）名簿

令和3年2月現在

五十音順、敬称略

氏名	所属	分野	氏名	所属	分野
会 員			大隅 典子	東北大学	基礎医学
五十嵐 和彦	東北大学	基礎医学、基礎生物学	大谷 栄治	東北大学	地球惑星科学
北川 尚美	東北大学	化学、環境学	大野 英男	東北大学	総合工学、電気電子工学
経塚 淳子	東北大学	農学、基礎生物学	大林 茂	東北大学	機械工学、総合工学
行場 次朗	尚綱学院大学	心理学・教育学	大堀 淳	東北大学	情報学
佐藤 嘉倫	東北大学・ 京都先端科学大学	社会学	小笠原 康悦	東北大学	歯学、基礎医学
杉本 亜砂子	東北大学	基礎生物学	小川 智	岩手大学	化学
高井 伸二	北里大学	食料科学、農学	小田中 直樹	東北大学	史学
高倉 浩樹	東北大学	地域研究	海妻 径子	岩手大学	社会学、史学
田村 裕和	東北大学	物理学	掛川 武	東北大学	地球惑星科学、環境学
芳賀 満	東北大学	史学、哲学	風間 基樹	東北大学	土木工学・建築学
水野 紀子	白鷗大学	法学	加藤 千尋	弘前大学	農学
安村 誠司	福島県立医科大学	健康・生活科学、臨床医学	金田 千穂子	東北大学	総合工学、材料工学
連 携 会 員			河合 宗司	東北大学	総合工学、機械工学
青木 洋子	東北大学	臨床医学、基礎医学	河合 佳子	東北医科大学	基礎医学、基礎生物学
赤池 孝章	東北大学	基礎医学	河田 雅圭	東北大学	統合生物学
秋葉 澄伯	弘前大学	健康・生活科学	河野 銀子	山形大学	社会学、心理学・教育学
阿尻 雅文	東北大学	化学、環境学	菊地 芳朗	福島大学	史学
足立 幸志	東北大学	機械工学	木村 敏明	東北大学	哲学、地域研究
安達 毅	秋田大学	総合工学	木村 直子	山形大学	食料科学
阿部 恒之	東北大学	心理学・教育学	久保田 功	小白川至誠堂病院	臨床医学
石井 直人	東北大学	基礎医学、臨床医学	久保野 恵美子	東北大学	法学
石川 拓司	東北大学	機械工学、総合工学	栗原 和枝	東北大学	化学
乾 健太郎	東北大学	情報学	厨川 常元	東北大学	機械工学
犬竹 正明	東北大学・ 高度情報科学技術研究機構	総合工学、物理学	小泉 政利	東北大学	言語・文学
今村 文彦	東北大学	土木工学・建築学	小谷 元子	東北大学	数理科学
岩渕 明	岩手大学	機械工学	小林 隆	東北大学	言語・文学
上野 義之	山形大学	臨床医学	小林 広明	東北大学	情報学
梅津 理恵	東北大学	材料工学、物理学	小森 大輔	東北大学	環境学、土木工学・建築学
大越 和加	東北大学	食料科学、農学	小山 良太	福島大学	農学、地域研究

氏名	所属	分野	氏名	所属	分野
西條 芳文	東北大学	基礎医学	野家 啓一	東北大学・立命館大学	哲学
佐々木 郁子	東北学院大学	経営学	橋本 優子	福島県立医科大学	基礎医学、臨床医学
佐々木 啓一	東北大学	歯学	長谷河 亜希子	弘前大学	法学
佐々木 公明	尚綱学院	経済学、環境学	花輪 公雄	東北大学	地球惑星科学
佐藤 弘夫	東北大学	哲学、史学	原 純輔	東北大学	社会学
佐藤 れえ子	岩手大学	食料科学、臨床医学	平野 愛弓	東北大学	総合工学
島田 義也	環境科学技術研究所	基礎医学	平本 厚	東北大学	経済学
下野 裕之	岩手大学	農学	福村 裕史	仙台高等専門学校	化学
庄子 哲雄	東北大学	機械工学、材料工学	古原 忠	東北大学	材料工学
杉本 諭	東北大学	材料工学	本間 香貴	東北大学	農学
住井 英二郎	東北大学	情報学	増田 聡	東北大学	地域研究、 土木工学・建築学
関口 仁子	東北大学	物理学	松八重 一代	東北大学	環境学、経済学
曾我 亨	弘前大学	地域研究	圓山 重直	八戸工業高等専門学校	機械工学、総合工学
高田 昌樹	東北大学	総合工学、化学	三島 和夫	秋田大学	臨床医学
高梨 弘毅	東北大学	材料工学、総合工学	宮本 ともみ	岩手大学	法学
竹石 恭知	福島県立医科大学	臨床医学	武藤 由子	岩手大学	農学
田中 真美	東北大学	機械工学	持田 灯	東北大学	土木工学・建築学
千葉 柁司	東北大学	物理学	本橋 ほづみ	東北大学	基礎生物学、基礎医学
寺崎 哲也	東北大学	薬学	森田 康夫	東北大学	数理学、 心理学・教育学
寺田 眞浩	東北大学	化学	柳原 敏昭	東北大学	史学
寺田 幸弘	秋田大学	臨床医学	山川 充夫	福島大学	地域研究、 地球惑星科学
天童 睦子	宮城学院女子大学	心理学・教育学、 社会学	山下 俊一	福島県立医科大学・ 量子科学技術研究開発機構・ 長崎大学	臨床医学
時任 静士	山形大学	材料工学、 電気電子工学	山下 正廣	東北大学	化学
徳山 英利	東北大学	化学、薬学	山下 まり	東北大学	食料科学、農学
直江 清隆	東北大学	哲学	山田 章吾	東北大学・ 杜の都産業保健会	臨床医学
中澤 俊輔	秋田大学	政治学	山本 雅之	東北大学	基礎医学
永次 史	東北大学	薬学、化学	湯村 和子	東北医科薬科大学	臨床医学
中谷 友樹	東北大学	地域研究	吉沢 豊予子	東北大学	健康・生活科学
中山 啓子	東北大学	基礎医学	吉野 博	東北大学・ 県立秋田大学・ 前橋工科大学	土木工学・建築学、 健康・生活科学
南條 正巳	東北大学	農学			

以上 117 名